新潟県
公民館月報
KOMINKAN GEPPO
（昭和33年３月18日　第３種郵便物認可）
発 行 年　平成26年９月15日
発行定日　毎月15日
2014 9 September

4.5 特集 「出番です!! 公民館」松本大学教授・白戸　洋
2 **トピックス**　前期・地区研修会開催される
3 **視点**　「公民館のあるべき姿」　長岡市立東中学校長・近藤　道範
3 **ひろば**　「縦・横のつながりを優しい心で」　聖籠町・渡辺久仁子
6 **実践記録シリーズ**　「つばめ目耕塾」　燕市
7 **サークル交流**　「17年目の男の料理教室」（上越市）／「あなたとわたしは今日から仲間！」（妙高市）
7 **素顔拝見**　高橋　勇人さん（新潟市）／赤松ゆり子さん（長岡市）
8 **お元気ですか**　「野菜づくりと地域の懸け橋に」佐渡市・小松美知乃さん
8 **恵贈資料紹介　ネットワーク**

いざ尾瀬へ！　雨天決行！　日帰り強行！（柏崎市）

表紙解説
　多世代のためのエイジレス講座「山歩きの基本」で、生の尾瀬を学ぶことができた一日でした。夏の思い出です。

No.739

TOPICS

前期・地区研修会開催される

平成26年度の前期・中越地区、下越地区の研修会が開催されました。

〈中越地区公民館研究大会〉

主　題：「絆と活力あるコミュニティ形成の拠点としての公民館をめざして」

主　管：柏崎公民館・出雲崎町中央公民館・刈羽村公民館

期　日：平成26年６月26日㈭

会　場：刈羽村生涯学習センター「ラピカ」

参加者：１５６名

中越地区16市町村のすべてが参加しました。

大会の内容：

来賓：中越教育事務所社会教育課長　若月　俊彦様

刈羽村教育長　小林　志郎様

講演：講師　手島　勇平氏「地域のきずなと公民館～私たちが求める青い鳥～」

講演　手島　勇平氏

事例発表　諏訪部寛栄氏に質問

事例発表：講師　諏訪部寛栄氏「地域とともに歩む学校づくり～コミュニティ形成への参画～」

〈下越地区公民館職員研修会〉

趣　旨：下越管内の公民館職員の交流と親睦を深めながら、公民館のあり方や課題について考えると共に、公民館活動の幅を広げていくための知識や技能を深め、資質の向上を図る。

期　日：平成26年６月26日㈭

会　場：村上市生涯学習推進センター

参加者：公民館職員30名

研修会の内容：

講義１

講師　田嶋　雄洋氏「アイスブレイクを学ぶ」～このようにすれば、上手にアイスブレイクができるようになりますよ～「広報宣伝」～キャッチコピーについて考える～

講義・実習　田嶋　雄洋氏

笑いヨガ実習

講義２

講師　山田　就子氏「笑いヨガ」

事例発表：

胎内市「ワクワク科学教室」

阿賀町「阿賀町再発見事業」

情報交換：

「最近手応えのあった事業」

グループで情報交換

上越地区の研修会は11月に開催予定です。新潟市の研修会と併せて紹介する予定です。（田原）

視点

「公民館のあるべき姿」

長岡市立東中学校長　近藤　道範

高度経済成長に伴い産業構造が変容し、地域単位での生産・流通・消費という枠組みが崩れるに伴い、地域行事よりも個人生活の豊かさを優先する風潮が日本全体を覆うようになりました。更に急速な少子化と高齢化が加わり、今や地域コミュニティの存続さえも危ぶまれる状況です。

東日本大震災以降、地域の絆が改めて評価されるようになりましたが、防災や高齢者を支える視点が強調されています。社会福祉の増進はとても大切でありますが、住民の生涯学習拠点としての「公民館のあるべき姿」についても広く議論すべきです。

社会構造の変容の影響を大きく受けている学校では、郷土愛を軸としたキャリア教育を推進しています。ふるさとへの愛着と誇りをもち、自らの将来を設計し、地域を愛し地域に貢献する子どもを育むことを目指しています。

ライフステージに応じた学びを提供し、学習活動を通じて地域づくりを進める公民館と学校が今こそ手を取り合う必要があります。公民館は従来の活動で培ってきた人材を学校に積極的に提供し、学校は公民館の学びを活用し、共に地域の学びを支え合う関係づくりが重要と考えます。

HOT NEWS 掲示板

社団懇総会

社会教育振興のために県内の社会教育団体で組織されている「新潟県社会教育団体懇話会」（略称：社団懇）の総会が７月25日㈮新潟会館で開催されました。社団懇の加盟団体は下記の10団体です。

公民館連合会　社会教育委員連絡協議会
子ども会連絡協議会　小中 PTA 連合会
高校 PTA 連合会　ボーイスカウト
ガールスカウト　婦人連盟　健民少年団
連合会　生涯学習協会

当会は来年度から２年間、社団懇事務局を担当することになっています。

総会には県生涯学習推進課長をはじめ多数の来賓、関係者が集まりました。

ひろば

「縦・横のつながりを優しい心で」

聖籠町　公民館運営審議会委員　渡辺久仁子

以前私は「食生活改善」の委員をしていた。昭和六十年度総会で「ダムに沈む奥三面の映画を見て感動し、私達も聖籠の文化を残そうと決めた。老人の住む五軒を選び私達も五班に分かれ聞き書き訪問をした。食を通しての聞き取りだがご老人達は生きいきと昔の事を話して下さった。食を通し、昔の歴史をも知る事ができた。それを丸三年がかりで「聖籠の食文化をたずねて」という冊子にまとめ平成元年に発刊した。２０８頁もの本である。

その事が評価され厚生大臣賞を頂いた。その翌年全国大会が新潟にあり事例発表全国四人の中に選ばれ発表させて頂いた。会員結集の活動がこの様に素晴らしい事になった。

その本を元に中学生の夏期学習に交流した。昔を語り昔の食事を作る事だ。調理室で待っていた男子生徒が私達を見て「げっババァだ」と叫んだが一緒に料理を作っているうちに「姐ご」、最後には「師匠」と呼んでくれた。終って帰り際女子生徒が二階から手を振って「久仁子さん、又来てぇ」と言っている。その感動は今も忘れない。

そして想う事。公民館活動も保健活動もすべて人の心の内に触れる事が大切なのだと。もっと大切なのは心の柔かい時代に沢山の感動を与え、育む事ではないだろうか、と。

～現代的課題と公民館

な人と一緒に暮らすこと」に他ならない。もう少し一般的に言えば「異質との共生」である。公民館は同じような方向性を持った人が集まるサークルや同好の集まりとは異なり、地域の様々な人々が一緒に活動する場である。その中でお互いの違いを認め合い、一緒に地域で生きていく関係性を創っていくことが公民館のもうひとつの役割である。

住民が日頃からお互いの違いを克服し、利害が対立する時にもそれを自ら調整して共に生きていく地域の関係づくりをおこなうために公民館が果たすべき役割は大きい。

買い物問題から地域が見える

学生のアイデアから、松本駅近くの住宅街で、リヤカーを引いて週一回のペースで、規格外の野菜の引き売り販売を始めてもう５年になる。始めた頃は、「学生さん頑張ってるね」と褒められることも多かった一方で、「ごめん。昨日スーパーで買っちゃった」というお客さんもいて、地域の課題解決よりは学生による調査や実習という意味合いが強かった。しかし、年々高齢化が進む中で地域の高齢者からはだんだんと「なくては困るもの」として、「アテ」にされるようになってきた。試験やお盆を理由に２～３週間に休むと「学生さんには夏休みはあるが高齢者にはない」などという痛烈なお叱りもあり、今年度からは台風の日もお盆も関係なく毎週実施し、４年後を目途に事業化を図るつもりで取り組んでいる。

引き売りをする中で実感する買い物に困難を感じる高齢者の増加は、「買い物弱者」とか「フードデザート」などの地域の問題として顕在化してきている。身近な商店がローカルスーパーに駆逐され、その中小のスーパーが大型店との競合に負けて撤退する一方で高齢化で遠くに買物に行くことができなくなるという生活環境と商業環境の変化が生んだ現代的な課題である。

しかし、引き売りを通じて強く感じるのは、買い物をはじめとする生活の中で隣近所の支え合いの欠如である。支え合いどころか交流さえもない地域も少なくない。したがって、学生の引き売りは地域に新しい風を吹き込む結果となった。引き売りで週１回顔をあわせることがきっかけとなり、学生が去った後も立ち話が始まったり、どこかの家でお茶会をしたりする「買い物コミュニティ」が生まれたこともある。核家族化や地域の人間関係の喪失などにより買い物ができない社会的な弱者が生まれたともいえるのではないか。買い物問題は地域の共通の課題として地域の関係性を取り戻すまたとないチャンスでもある。

公民館のようなもの？

かなり前になるが松本のある地区の公民館の役員研修会に講師として招かれた。始まる前に館長や主事と打ち合わせをしていると次々と参加者がやってきた。口々に「いつまで公民館やるんだい」「忙しくて本当にやめてほしい」などと、動員をかけられて仕方なくやってきたという雰囲気が伝わってきた。「公民館頑張ろう!!」みたいなその日の演題をとりやめて、15分の短めな発題のあと急遽20のグループに分かれてのディスカッションに変更した。テーマは「公民館の悪口みんな言っちゃおう」とした。各グループから最後に発表をしてもらったが面白いことにだいたい２点に集約された。

ひとつは「いまみたいな公民館はいらない」というものである。役員が一生懸命やってもなかなか人が集まらない。前年踏襲でやりがいもない。役員だって籤に負けたり断れなくて引き受けた人も多い。カルチャーセンター化や貸館化している公民館なら他に選択肢はたくさんあるというものである。もうひとつは「でも公民館みたいなものは必要だ」ということである。高齢化の進展や人口の減少など地域が衰退する一方で、自己責任などに象徴されるように行政に頼ることができなくなってきた。一人で生きていくことの不安が高まる中で、それでも数少ない地域の人々が顔を合わせる場がなくなることへの不安とも言えよう。地域の拠点や居場所としての公民館の役割はむしろ大きくなっている。

出番です！公民館

平成21年10月、長野県生涯学習審議会は、「新しい時代にふさわしい長野県の生涯学習振興のあり方について」という答申をまとめ、これからの公民館等のあり方について提言を行なった。生涯学習振興の現状と課題を踏まえ、これからの生涯学習には、個人の生きがいや教養、趣味等に関する学習に加え、「人や地域とかかわって学び、学びの成果を人や地域に生かす生涯学習」として、異なる年代や多様な人々との豊かな交流や支援による「学びの絆」を育み、地域住民が自立しつつ協働して、地域課題を解決したり、地域の価値を創造したりする力である、「地域力」を高めることを生涯学習の目標として掲げた。

「学習と暮らしを結ぶ」手法を生かし、趣味や教養の学級・講座だけでなく、生活課題や地域課題に向き合った学習を行い、その成果を地域コミュニティの再生に生かしていくことができるように、これまで以上に取り組んでいくことを求め、特に公民館には住民の学習や活動を支援するために、住民の要望を把握し、地域課題をともに考え、地域資源や人材に精通した専門的職員の存在の重要性を指摘した。公民館の新しいあり方を求めたこの提言がきっかけとなり、県内各地の公民館で取り組みが始まっている。

東日本大震災以降、地域の絆の重要性が叫ばれている。しかし地域の絆は一朝一夕でできるものでもなく、あるいは行政が創れるものでもない。地道で息の長い住民による取り組みがあって初めて絆は生まれるものである。「まちづくりとは人の心を変えること」とゼミの学生が卒業研究の最後に指摘したが、まさに公民館は人の心を変える場である。地域と向き合わざるを得ない現代にこそ公民館の意義が問われる。

まさに「出番です!! 公民館」である。

特集「出番です!! 公民館」

松本大学　総合経営学部
観光ホスピタリティ学科
教授　白戸　洋

被災地で考えたこと

平成23年４月末に、東日本大震災によって津波の被害を受けた、ある地区を訪ねた時のことである。震災後多くの住民は地区の小学校で必死に避難生活を送っていたが、犠牲になった人々の四十九日も過ぎてこれからどうしていこうかと現実に向き合い始めた時期であった。しかし、被災からすでに２か月近くが経っているにもかかわらず、津波で泥だらけになった家々がそのまま手つかずになっていた。一方で、毎日のように１時間ほど離れたボランティアセンターから大型バスでやってくるボランティアは、小学校の中の片づけが済めば、泥だらけの家を横目に他にやることが見つからずに帰っていく。なぜこんなことになるのか不思議だった。

住民は家の片づけをすすめようと各自ボランティアセンターに連絡をしていたものの個別の対応では人手を確保することは難しい。地域全体で対応をすればよいが、それがなかなか難しかった。その地区は市役所の本庁に近く行政的には本庁管理の下にあった。町内会は組織されていたものの行事等の開催が中心で地区のことのほとんどを行政に任せてきたという。その結果、震災で市役所そのものも被災して機能できなくなったことで、地域の課題を解決するシステムを失ってしまった。避難所には他府県から派遣された行政職員が常駐していたが、10日ごとに交替し、その役割はせいぜい避難物資の配布や施設の管理にとどまっていた。

そんな中で、住民は避難所の運営等については主体的に取り組んでいたが、個々の家をどうするかという個人の利害関係の絡む事案に関してはなかなか手をつけることができない。泥出しや片づけを誰の家から始めてどういう順番で進めるかについて住民自身が決めることができなかったのである。それは、住民の利害関係の調節を必要とする地域の問題や課題に住民が主体的に取り組む経験もシステムもなかったためである。東北人は我慢強いと言われるがまさに我慢していたのである。ふと思いついて地区の公民館を訪ねてみたが、「震災のためにしばらく閉館します」という張り紙がしてあった。この時ほど、公民館の役割についてつくづく考えさせられたことはなかった。

住民による地域課題の解決の難しさ

地域で住民が様々な活動を行う場合、お祭りや運動会を開催し親睦や交流を深めることは面倒くさいと思う人はいるが、地域の中でそれほど強い異論は出にくい。高齢者や福祉にかかわる取り組みも殆どの住民が関心を持ち協力的であることも多い。しかし、地域の住民間で対立するようなテーマについては、その解決には地域の力量が問われることになる。迷惑施設の建設や住民の財産にかかわるような道路の拡幅等、個々の住民の利害が異なる場合、それをどうやって誰が調整していくかが問題になる。多くの地域では行政に任せることで住民間の対立を回避することが多い。しかし今回の被災地のように行政が機能しない場合に住民は何もできないことになる。そうならないためには、日頃から住民が主体的に地域の運営や課題の解決に取り組むことが欠かせない。

地域には様々な人が一緒に住んでいる。多様な価値観やライフスタイルを持つ住民がひとつになることは大変である。まして新興住宅地などではそもそも一緒に暮らす覚悟があって集住を始めたわけではない。松本で社会福祉協議会が「見守り安心ネットワーク」という取り組みを始めた。「隣の一人暮らしのおばあさんが朝９時になってもカーテンを開けない、新聞をとらなければ、様子を見に行ってあげよう。具合が悪くなっているかもしれないとお互いに見守りあい助け合いましょう」という趣旨である。確かに大切な取り組みではあるが、地域の現実の前にはそう簡単にいかない。「あいつに見てもらうんだったら何もしてもらわない方がましだ!!」と参加を呼び掛けに来た民生委員にある高齢者が言ったそうである。地域の中でみんなが仲良く暮らしているわけでない現実を直視する必要がある。住民が地域を主体的に運営していくためには、日ごろからの意識的な取り組みが必要になる。

公民館の現代的役割とは何か

公民館が果たすべき役割を地域社会の現状から考えると３つの役割に整理することができる。第一に学習の拠点としての役割である。信州では、戦後創生期の公民館活動では、青年団と婦人会を両輪として地域の集会場やお寺、時には「青空公民館」といわれるように広場に集まり、自らの生き方や地域のあり方について学び合い、語り合ったという。そこでは一人一人が自らの問題や身近な地域の課題を持ち寄り、それを地域課題として共有化した。すなわち、一人一人の課題をみんなの課題として共有化する「学習」が取り組まれた。住民の意識や生活スタイルが多様化する現代の地域においてこの「学習」の拠点として公民館がさらに重要な役割を果たす必要がある。

第二に実践の拠点としての役割である。地域課題がよく分からないという声を聞く。しかし、地域課題は考えていても見えてこない。実際に行動することで、何が欠けているか、何が問題かが見えてくる。学習は机の上だけでやることではない。地域の中で具体的に実践する中でこそ地域の課題があきらかになる。学習と実践の繰り返しにより地域の課題が明確になり、その解決に向けた実践活動が蓄積され、地域の中に課題を解決するシステムが育っていく。

第三に自治の拠点としての役割である。自治とは「嫌

実践記録シリーズ 198

つばめ目耕塾

燕市社会教育課

燕市社会教育課では、成人を対象に「つばめ目耕塾」を開催しています。合併前より燕地区で行っていた「笑和大学」と分水地区で行っていた「成人大学」を統合し、平成23年度より始めました。目耕とは、目で紙の田を耕す、読書や学習をする、という意味です。聞いて楽しい話、日々の暮らしに役立つ話、コンサートなど、いろいろな内容を行っています。

○目　　的　高齢者に様々な学習機会を提供し、心豊かな生きがいのある生活となるよう役立ててもらう。
○開催期間　７月～11月
○回　　数　12回
○会　　場　中央公民館、吉田公民館、分水公民館、他

どのような内容なのか、12回全てを紹介したいのですが、紙面が足りませんので３回分を紹介します。

・「渋井ちゃんの市民のための新潟弁法律教室」
８月27日　吉田公民館／参加者60名

講師は渋井　保之さんです。平成24年度に引き続き25年度もお願いしました。「夫婦の関係づくり」「子育て・孫育て」「婚外子裁判」「裁判員裁判」などをテーマに、明日からの生活に活かせる身近な法律を知ることが出来ました。

法律と聞くと難しく考えがちなところを、身近な例や裁判所書記官としての経験をもとにした「法律クイズ」や「裁判所書記官は見た！」などのお話をまじえ新潟弁で話され、おもしろくて分かりやすいと好評でした。

・「法話～いまをいきる～」
９月３日　分水公民館／参加者100名

講師は「成人大学」の頃から５年連続でお願いしている澁谷　隆阿さんです。命を繋ぐことや、「今」生かされているありがたさを世代を超えて繋いでいくこと、一期一会の精神で人に接することの大切さなどについてお話しいただきました。

毎年好評の法話で、聞く人を飽きさせない巧みな話し方は、笑いあり涙ありで、あっという間に時間が過ぎていきましたが、気付かされることがあったと好評でした。

・「なるほど！介護トークとジャズ生演奏～夕方のチャイム“恋ツバメ。”をジャズで～
11月12日　文化会館／参加者58名

講師は（福）つばめ福祉会の佐藤正之さん。前半では認知症や介護についてのお話をお聞きしました。福祉会の方から介護予防に役立つレインボー体操も教わり、参加者みんなで行いました。

後半はジャズ演奏。講師の佐藤さんは、燕市の観光名所や著名人、歴史、産業をテーマにした“恋ツバメ。”（18時に燕市内の防災無線から流れます。）の作詞作曲者で、音楽活動をされていることから、“恋ツバメ。”ジャズバージョンなどのジャズ生演奏を楽しみました。

○成果

上記の他に「日本の歌」「新潟の伝統野菜」「歴史」「クラシックコンサート」「万葉集」など、社会とのつながりとなるさまざまな話題を聞いていただき、楽しみながら学ぶことができたと感じています。

○課題

３つの地区を４回ずつ巡回する形であったため、交通に不便を感じる参加者もいました。また、参加者募集のために周知方法を工夫する必要があると感じています。　（中山　記）

circle サークル交流

十七年目の男の料理教室

諏訪男の料理教室

一般的に、暗くなると男性は酒を欲しがり、美味い肴も食べたくなる。時には外で。度を超すと妻達から大目玉をもらう。それならば自分で美味い肴を作って大いに飲もうではないか。十六年前、公民館で募集をしていた『老人と男の料理教室』講座に単純な発想の男達が参加した。先生のご指導の下、今では包丁の扱いも上手。勿論、講座で作った料理を肴に乾杯。講座に集まった男達の年齢・職業・地域が様々な事で男達に欠けている異業種間・地域間交流の場となり、会話も弾む。そして、忘れてはいけない事は妻達への感謝。講座最終日に必ず招待する。この時だけは料理を妻達に自慢出来る。凄いぞ、諏訪男の料理教室は。

（上越市・諏訪男の料理教室　川上　文雄　記）

あなたとわたしは今日から仲間！

妙高市レクリエーション協会

私たち妙高市レクリエーション協会は、市内各地域を拠点とし、「住みよいまちづくり」を目的に、文化・芸術・スポーツ・アウトドア活動・健康・介護予防等の分野で活動する10団体で構成され、様々なレクリエーション運動を展開しています。

会員の健康づくり・仲間づくり・スキルアップを目指す定例会の他、会員以外の皆さまにもレクリエーションの楽しさをお届けしたいと、一般市民向けの主催事業で普及に努めています。

「生涯学習」としてのレクリエーションを広めたいとの思いで続けてきた活動でしたが、最近では学校のクラブ活動や介護予防事業のお手伝いなどでも関わる機会が増え、さらにまちづくりへの思いが募るところです。

（妙高市・妙高市レクリエーション協会　事務局　山崎　淳子　記）

素顔拝見

今年４月より越路公民館に配属となりました、赤松ゆり子さんを紹介します。

配属早々担当となった５月の成人式に向け成人代表者や御出席いただく恩師の方々への連絡、又会場準備と大忙しの中、同じく５月開講の幸齢者教室や25ある公民分館の分館長会議など息つく暇なく次々とこなしていく姿は、とても一年目とは思えないほどに頼もしく感じられました。

毎回の幸齢者教室では、穏やかな口調とにこっと白い歯の光るゆり子スマイルで和やかに講座が進み、受講者の信頼を得ていることがわかります。赤松さんの豊富な知識と経験そして行動力はこれからの越路公民館を、より一層地域にとって大切なものにしていってくれることと思います。

（文化展もゆり子スマイルでお願いしまーす。）

（社会教育指導員　丸山　京子　記）

長岡市越路公民館

主査　赤松ゆり子さん

平成25年４月１日から坂井輪地区公民館勤務。西区公民館の予算・決算や委託契約のほか、老人クラブとの共催による４地区芸能大会、子ども体験活動、コミュニティ・コーディネーター養成講座も担当している。

・１年半の公民館勤務の感想は？『これまでの職場と勝手が違い、はじめは戸惑いも・・・』

・坂井輪地区公民館は７月19日にリニューアルオープンしましたが…？『引っ越し作業や記念事業無事を終えることができました。オープン後は設備関係の調整のほか、複合施設全体の管理業務も増えて大わらわです』

施設管理に主催事業と一人二役をこなし、いつも笑顔でみんなの人気者である。

（新潟市坂井輪地区公民館　渡辺　郁夫　記）

新潟市坂井輪地区公民館

主査　高橋　勇人さん

お元気ですか

「野菜づくりと地域の懸け橋に」小松美知乃（佐渡市）

多くの方に支えられ、39年間の中学校勤務を終えて２年目となりました。時間に追われての生活から一変。ゆったり、のんびりと過ごしています。今の生活の中心は、農作業です。自分で種をまき収穫した野菜の味は格別です。

また、年に十数回、中学・高校・地域のスポーツ大会（陸上、駅伝、マラソン）のお手伝いと、年に８回、高齢者のお弁当づくりのお手伝いをしています。これからも規則正しい生活を心がけ、積極的に人との関わりを持ち続けたいです。

今、はまっているものは「ナンプレ」です。頭脳の活性につながることを信じつつ…。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

Net work ネットワーク

青少年研修センター主催事業

「物づくり体験塾 in 越前浜第１回」

県立青少年研修センターでは、地元で活動している芸術家を講師に「身の回りの物」にこだわった体験講座を開催します。第１回は「クレイアート（粘土細工）体験です。

講師：渡辺ゆき さん（nendog）
日時：10月５日(日)　９：30～13：00
会場：県立青少年研修センター　新潟市西蒲区越前浜
費用：1,620円（材料費、昼食代）
定員：30名（小学生以上）先着順
申込：青少年研修センター　TEL　0256-77-2111

恵贈資料紹介

十日町市吉田公民館

「信江」第52号

十日町市吉田公民館が１年間の集大成としてまとめた文集が発刊しました。

婦人文集として52年間の発行を続けた冊子は大変貴重なものです。

自由記述のコーナーと俳句・詩のコーナーで構成されていて、どの作品も気楽で素朴さにあふれています。

【問い合わせ】
〒948－0105
十日町市北鎧坂867－1
十日町市吉田公民館
担当：横山
TEL：025－752－2874
FAX：025－752－5240
E-mail：t-yoshida-k@city.tokamachi.lg.jp

「信江」第52号編集委員のみなさん

農業・農村が日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会
会長（村上市長）　大　滝　平　正
新潟市中央区新光町4-1　新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041　　FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

富山商戦の日は、朝から神社に集まり総勢30人ほどで秋祭りの準備をしていました。しめ縄や灯籠づくりをしていましたが、携帯ラジオから聞こえる戦況に一喜一憂。新井選手の逆転サヨナラ2点本塁打では全員大喝采。それまで作業が手につかずお昼までに完成が出来ないと思われましたが、一転して活況になり早く完成。慰労会のビールは最高でした。ありがとう文理。（田原）

発行所　新潟県公民館連合会　発行人／会長　佐藤　実　編集人／事務局長　田原　理　Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp
〒950-2004 新潟市西区平島1301 中野プラザ107 TEL･FAX（025）266-7711
印刷／第一印刷所　〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776【定価１部160円 〒共･年間 1,920円】